

(1)概要

日時	令和5年11月9日(木)13:30~15:40	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室) ※集合開催、web 開催併用	
出席者	会長	辻 行雄(L's College おおさか)
	副会長	富永 光昭(国立大学法人 大阪教育大学)
	委員	山崎 淳(寝屋川市立梅が丘小学校)
	委員	藤本 財久(寝屋川市立あかつき・ひばり園)(欠席)
	委員	川橋 健太郎(グローバルコミュニティ株式会社)
	委員	白石 倫子(寝屋川支援学校 PTA 代表)
	校長	阪本 友輝
	准校長	藤田 太朗
	事務局	
	事務部長	清水 紀行
	教頭	豊島 秀多
	教頭	東川 彩 (事務局長)
	統括首席	坂田 真一
	首席兼教務部長	西橋 聖次
	首席	亀村 尚希
	首席	角尾 将司
	指導教諭	日置 節子
	小学部主事	伊佐敷 香奈
	中学部主事	榎野 健太
高等部主事	西村 真也(欠席)	
進路指導主事	坂元 久美子	

(2)議事録

内容
①生活指導部の取り組みについて
②授業研究について
③令和6年度の教科書採択・50周年記念事業
④令和5年度学校経営計画進捗状況及び学校評価について

議事録

校長挨拶

- ・12月2日、3日に学習発表会を挙げる。今年度は、4年ぶりの舞台発表を実施する。
- ・インフルエンザやノロウイルスが流行しているが、新型コロナも明け、流行前と同様に教育活動も徐々に復活している現状である。
- ・様々な取り組みや学校経営計画の報告があるが、その中で忌憚ない意見をいただき、より良い学校づくりをしていきたい。

坂田首席

- ・スライドに沿って説明
- 1. 今年度よりバス部と児童生徒指導部が統一。
- 2. 寝屋川警察に来校していただき、防犯訓練を実施。その時の様子の動画(不審者が教室に侵入している様子と確保の場面)を視聴。
 - a. アンケートの内容から足りないと感じた防犯グッズが多くあった。学校の規模に対して少ないことがわかり、保管場所の検討も必要であることがわかった。
 - b. 不審者対応マニュアルの見直しを行い、教職員による教室の施錠方法の改善を図った。また、防犯グッズの計画的な購入及び保管箇所の検討をしている。
- 3. 防犯訓練を年度当初に実施できるように検討中である。

日置
指導教諭

- ・スライドに沿って説明
- 1. 学校全体としての取り組みの意識と教職員全体の授業研究に対する意識が高まったと感じる。
- 2. 12本の研究授業を実施。初任者の研究授業では、PDCAサイクルを取り入れた継続的な授業研究を実施。授業者・指導教員・指導教諭の3者で進めることで、ミドルリーダーの授業力の向上を図る。10年目経験者研究授業では、主体的で対話的な深い学びをめざした授業づくりに取り組んでいる。
- 3. 研究授業では、動画を教職員で視聴し、観察シートを活用している。
- 4. 学校評価での「授業見学をして授業方法等について検討する機会があるか」との問いに対する肯定的な意見が増えていることや、初任者の自己評価シートでも授業研究に対する必要性を実感している様子が見える。また、シラバスや個別の指導計画など教科ごとに目標が示され、これまで以上に教科性が意識されるようになった。
- 5. 学校経営計画にも記載されている通りの授業像をめざして、今後も教職員間で学びを深めていながら授業研究を進めていきたい。

西橋首席兼
教務部長

- (次年度の教科書採択について)
- 1. スライドに沿って説明。
 - 2. 小中高の教科書73冊のうちの☆本は12冊を採択していく。今後も系統だてて「☆本」の採択を増やしていき、シラバスに関連できるようにする。

質疑応答

(50周年記念事業について)

1. スライドに沿って説明。
2. 「記憶にも記録にも残る50周年」をコンセプトに全校を挙げて検討している。
3. PTA からイベントとして秋祭りを実施。
4. 50周年式典は、参加のしやすさを重視し、本校体育館で実施予定。
5. 例年の鑑賞会より充実した内容になるように計画中。
6. 公募事業として、歌詞を公募し、ダンスミュージックを作成。T シャツのイラストを生徒からデザインを公募して作成し、全員で着用してダンスをする予定。
7. 「学校きれい大作戦」を実施予定。高等部の職業の授業に小・中学部の児童生徒も参加し、みんなで取り組んでいく。
8. オープンスクールを実施し、保護者や地域の人を招いて見学してもらえるよう計画中。
9. 記念品の計画している。卒業生にイラストを依頼して作成することも視野に入れている。

(富永委員)

1. 事故事件(授業や教育活動内、登下校時)の時どうするか、全体のアウトラインや概要がどうなっているか知りたい。

→(阪本校長)

・学校安全委員会を設置し、対応が必要になった時に適宜集まっている。バスは、通学バスの緊急対応マニュアルの見直しを行った。添乗員の対応も含め、細かい部分の確認を進めている。また、エピペンやてんかん発作対応の緊急時シミュレーションを実施している。

(白石委員)

1. 児童生徒向けの不審者対応訓練の実施状況。

→(坂田首席)

現状は実施できていない。時期や内容の検討を進めていく。教職員の防犯訓練で児童生徒がいることを想定して行った。

2. 授業見学は、外部の方はこられているのか。

→(日置指導教諭)

公開日を設定し、外部の方が自由に見学できる機会を設定している。

【感想】

(山崎委員)

・本校では、警察の方に来ていただく形はしていないので、参考にさせていただきたい。ただ、児童生徒に恐怖心や学校に対する不安感につながるので気をつけなければならない。不審者侵入があった時の合言葉を決めるなど、その都度見直しを図っている。マニュアルについては、不審者が何を持っているかわからないので、臨機応変に考えていかなければならない

(川橋委員)

・さすまたの使い方を知らなかったとのこと。実践的な発見が見込めるので継続的にしていただきたい。

<p>阪本校長</p>	<p>(白石委員) ・保育園の防犯訓練も園児に見せないように避難させてから行っている。非常ベルだけでもパニックになる園児もいるが、方法も含めて考えていかなければならない。女性の先生もいるので、防犯グッズも扱いやすいものなどを揃えてもらえたら嬉しい。50周年記念事業では、PTAとしてできるところは協力する。</p> <p>(富永委員) ・訓練をしてもマニュアル通りにいかない場合が多い。不審者等対応については、学齢期によっても変わってくると思うが、子どもたちはまず逃げることを優先してもいいのではと思う。事件が起きてからでは遅いので、ヒヤリハットのところで防げるようにして欲しい。児童生徒については、遊びも入れつつではあるが、しっかり指導も入れて行ってみてはどうだろうか。授業研究に関しては、指導案の作成や初任者やミドルリーダー向けの授業研究の書籍もある。授業観察シートも授業構成要素やチームティーチングの要素も取り入れながら進めて欲しい。50周年記念事業、楽しみにしている。</p> <p>【学校経営計画に関する事項】 (小中) 1. PECS のワークショップは今年度も参加実施(6名)。小学部だけではなく、中学部でも順次広げていっている。授業場面で肯定的な言葉掛けをしている場面が増えている。 2. カリマネ通信を 3 号まで配信している。11 月 13 日に外部講師を招いて、カリキュラムマネジメントの研修を実施。 3. ポジティブ行動支援 外部講師を招いた研修を実施した。また、それに基づいた指導が増えていっている。 4. ICT 教育：様々な場面で活用が進み、校長会で本校の活用実践を報告する。google classroom の活用が広がっている。 5. 防災防犯訓練については、報告通りである。行う中で様々な課題も見えてくるので、どんどんブラッシュアップしていきたい。 6. 写真のウェブ販売を秋祭りでも実施。保護者からも好評の声をいただいている。 7. 寝屋川公園展示：各学期に担当学部を決めて、展示を実施。 8. 首席連携：首席会を実施し、その中でそれぞれの部署での提案事項の情報共有をし、管理職や全体へ提案している。 9. LS 以外の教員でも訪問相談を行なっている。先日、小学部の首席が小学校に訪問相談し、研究授業の指導助言を行った。</p>
<p>藤田准校長</p>	<p>(高) 1. キャリア教育プログラム：懇談等で保護者と達成状況や取組内容の確認を丁寧に行い、系統だった指導ができるよう引き継ぎを行っていく。 2. 余暇の過ごし方：家庭科や職業等で長期休暇の予定や旅行の計画を立てたてるなどの取組みを実施している。 3. 自立活動の教材の貸し出し：30 回以上を目標としているが、現時点で 6 回である。しかし、集中力や手指の巧緻性を高める取り組みは、多く行えている。将来的には、キャリア教育プログラムに取り入れることができたらと考えている。 4. 職場見学・体験：1年時から 1 人 2 ヶ所は行くことができた。出前授業も外部講師を招いて実施。2年時の体験実習も本年度より 2 回行ったが、その効果につ</p>

いては、検証を踏まえて進路選択につなげていきたい。令和9年度の第2次大阪府教育振興基本計画から、中学部における職場体験実習の実施率の100%を目標にすると記載があった。今後の検討が必要になってくる。中学部とも連携を行い、スムーズに高等部の実習などに臨めるように全校的に取り組んでいる。

5. 人権学習：道徳の授業で、思想や性別に関わらず多様性を受け入れることができる発言が増えてきた。

6. 自主単独通学：高等部1年の自主単独通学生が増えている。すぐに自主単独につながらない生徒もいるが、ルールやマナーを丁寧に指導し、自主単独通学生が増えていけるように取り組みを行なっている。

【感想】

(山崎委員)

1. 授業研究 わかることが児童生徒の居場所作りにつながる、主体的・対話的な学びも大事にしていきたい。しかし、働き方改革や教職員の心身の健康の充実との兼ね合いもある。

2. LS 10月18日に支援教育の市教科研究会で、寝屋川支援学校小学部の首席が参加(個に応じた自立活動)いただいた際、自立活動を教科学習に入れてもいいというご助言をいただき、参加された先生からは、そういったことも初めて知ることができ、とても有意義な研究会だったという意見があった。今後も、支援学校と地域の小学校とで連携を図り、支援教育について理解を深めていければと思っている。

(川橋委員)

1. 働き方改革：時間外労働が全体で10%削減しているが、逆に増えている先生もいるのでは？ストレスチェックの結果も参考にしていただけたら。

2. 会社で実習の受け入れを行なっている。来年度、中学生の実習の受け入れも予定しているので、積極的に受け入れさせていただけたら。

(白石会長)

1. ICT教育について、タブレット端末の活用では学校で何をしているのか、何ができるのかが家庭に伝わってきたら、情報モラルや適切な活用について把握できるので嬉しい。

2. (高等部の学校経営計画より)言葉の修正カードはとてもいい取り組みだなと感じた。

(冨永委員)

1. 働き方改革と教育の質の関係性はバランスが難しい。授業見学で専門性を高めるのは、いいことである。限られた時間の中で、どうしたらいいのかの方法を考えることができた。

2. 教材についても、教材や指導案など誰でも使えるストックがあれば、限られた時間内で教材研究を行いやすいと思う。自立に関しては、自分だけでなく、コミュニケーション面などの人との関わりも同時に大切にしてもらえたら。

3. 自立活動と教科の連動性：教科の中に自立活動を取り入れる時には、6区分27項目をベースに取り入れれないといけない。地域の小学校においては、それが取り入れられつつあるところであるので、支援学校から地域の小学校に広げていってもらえたら。

4. これまでの積み上げがしっかりあるので、これからも積み上げを増やしていき、寝屋川支援学校オリジナルの教育を作っていってほしい。

藤田准校長

(辻委員)

・寝屋川支援学校は、緻密でいろんな課題を吸い上げている。学校協議会についても密に取り組まれているように感じる。この経営計画を基にこのまま進めていただけたら。

質問事項への回答

1. 防犯訓練：児童生徒向けは、過去に校内放送を行い、児童生徒が教室内で隠れて待機している間に、管理職と事務職員でシミュレーションを行っていた。その中で、教職員から方法に疑問の声があがっており、警察の担当者と防犯訓練の話を詰めていたが、コロナが流行し実施できなかった。今年度は、教職員を対象とした取組みとなったが、今後、児童生徒向けの訓練についても検討を進めていこうと思う。

2. 学校独自のポータルサイト(ネヤコミ)がある。その中で、教職員間で教材の閲覧をいつでもできる状況である。

3. 働き方改革では、次年度に向けて行事の精選等を行なっている。各分掌でも業務削減のための検討を行いつつ、教育活動が充実していけるよう考えている。協議会で意見等をもらうことで、さらに検討を深め邁進したいと考えている。